

Salon

Vol.134 2021年9月 秋号



ホール41壁画画 ポール・ゴッアマン作「花とオルラン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 山中千尋
- 03 Phoenix Presents — 伝説のコンサート
サロンのショパンとリスト ロスチャイルド邸の晩餐会
中村圭介ピアノリサイタル〜抒情でたどるグリーグ〜
まほろば二重奏リサイタル〜サクソフォンデュオの可能性〜
- 06 Pick Up
- 07 Essay de say — 即興こそ音楽の生命線 岡田暁生

ジャズの最前線を 豊かな響きの中で 山中千尋さん

近年はヒップホップやポスト・ロック、クラシックなどに造詣が深いハイブリッドな音楽家が増えて、活性化が進む新世代のジャズ・シーン。ニューヨークを拠点としながらワールドワイドな場で活躍し、昨年にはメジャー・デビュー15周年を迎えた山中千尋は、そんなシーンの最前線の動きにも呼应しながら独自のスタイルを築き上げてきた。ジャズ・スタンダードの名曲はもろろんのこと、セロニアス・モンクやチャーリー・パーカーといったジャズの礎を作った巨人たちの代表曲、あるいはベートーヴェンらのクラシックの作曲家によるものまで。親しみやすい楽曲選びと斬新なアプローチで、ジャズの最先端と伝統が交錯させるジャズ・ピアノ界屈指の才媛が、18年ぶりとなるザ・フェニックス・ホールでの公演を実現させます。ベース奏者と打楽器奏者が加わったトリオ編成で行われる、クラシカルな音空間での貴重なステージをお見逃しなく!

(取材・文:吉本秀純/音楽ジャーナリスト)

山中千尋(やまなかちひろ/ピアノ)

リリースされたアルバムは全て国内のあらゆるJAZZチャートで1位を獲得。米メジャー・レーベルのデッカ・レコードとも契約を果たし、全米デビューも果たした。ダイナミズムと超絶技巧、ジャズの伝統と斬新なアレンジを併せ持つ、今まさに活動の絶頂期を迎えているピアニスト。2020年にはニューヨークアポロシアターでの公演もワールド・アウトとなった。2019年にはサンセバスチャンジャズフェスティバルのトップライナーナンプに、名門ジャズクラブのロンドンのロニース・スコット、パリのニュー・モーニング等に出演。公演はワールド・アウトとなるほどの評判を博し、英国ガーディアン紙のジャズレビューでも激賞される。第23回日本ゴールドディスク大賞、スイングジャーナル誌ジャズディスク大賞、JAZZ JAPAN AWARDなど権威ある賞を多数受賞。2020年6月にベートーヴェン生誕250周年、チャーリー・パーカー生誕100周年、そして山中千尋デビュー15周年を記念した最新作「ローザ」をリリースした。



クラシックにも造詣が深い才媛

Y Chihiro
amanaka

世界的に活躍する日本人ジャズ・ミュージシャンの歴史を振り返ってみれば、偉大な女性ピアニストたちの存在が時代の移り変わりとともに浮かび上がってくる。最も広く知られるところでは、1956年に単身で渡来して日本人として初めてパークリー音楽院で奨学生として学び、米国を拠点にビッグバンドを率いながら活躍した福音歌子嬢は、グラミー賞にも合計14回ノミネートされた評価を集め、90年代にデビューした大西順子も、日本人が率いるグループとして初めてニューヨークの名門ヴェイレッジ・ヴァンガードに出演したことが大きな話題を集めた。そんな流れを2000年代以降に継承し、ワールドワイドなジャズの現場の第一線で活躍を続けている2トップと呼べるのが、上原ひろみと今回ご紹介する山中千尋であることに異論はないでしょう。

桐朋学園大学を経て米国のパークリー音楽院を首席で卒業し、2001年に澤野工房から初のアルバムを発表した山中は、その後メジャー・レーベルへと進出し、米国においても名門レーベルのデッカと契約、ニューヨークを拠点に、世界各国の名門ジャズ・クラブやジャズ・フェスなどに出演し、昨年にはニューヨーク・アポロシアターで行われた公演もソールドアウトとなった。その一方で、NHK交響楽団や新日本フィルハーモニー交響楽団といったオーケストラとの共演も成功させるなど、多彩な活動スタンスとともに、取り上げるレパートリーもジャズ・スタンダードはもちろんのことクラシック、映画音楽からポピュラー音楽に至るまでと幅広い。親しみやすさと現代的かつ斬新な曲解釈やインプロヴィゼーションを両立させ、独自のスタイルで世界中のあらゆるタイプのジャズ・ファンを魅了し続けています。

ブラッド・メルドーやロバート・グラスパーといった現在進行形のジャズの象徴ともいえるピアニストたちが自身のトリオに起用したリズム隊ともいち早く共演し、ヒップホップやポスト・ロックなどを通過した最先端のスタイルに精通しながら、近年にはセロニアス・モンク、あるいはチャーリー・パーカーとバーター・ウェンといった、古典的な音楽家たちをテーマとしたアルバムも発表。また、米国留学前に専攻していたクラシックにも造詣が深く、多角的なアプローチで深化を続ける彼女が、実に18年ぶりとなるザ・フェニックスホールでの公演を実現させる。ベースとのデュオに打楽器奏者を加えた編成で、クラシックな音空間でどのようなライブを繰り広げるのか？ 今回はメール・インタビューで彼女からコメントを得ることができたので、それを見ながら秋に行われる貴重なコンサートへの期待を高めてください。



©Takehiro Furubashi

今回の秋のホール・ツアーは、トリオとアコースティック・デュオを織り交ぜた全国5公演。このザ・フェニックスホールで行われる大阪公演は、ベースとのデュオに打楽器奏者が加わったやや特別なアコースティック編成での出演となります。現在とところ、どのような内容のツアーにしようと考えていますか？

澤野工房さんから初めてのCDをリリースさせていただいてから、今年で20年になります。さまざま自己のレパートリーから、演奏したいと思っています。

ザ・フェニックスホールは、山中さんが澤野工房から初のCDをリリースした後に公演を行った場所です(03年に発表されたDVD『Learning Forward』にその演奏を収録)。今回が実に18年振りの出演ともなります。ホールの印象や当時のことなど、もし覚えていれば聞かせてください。

18年前のことでした。あのDVDの収録日には39度近い熱があり、ほとんど記憶が残っておりません。しかし、お客さまの拍手に励まされて、収録を終えることができました。本当にありがたかったです。

ジャズ・クラブでの公演とコンサート・ホールでの公演では様々な点でアプローチが変わってくると思うのですが、山中さんはいつもどう使い分けていますか？

たしかに、コンサート・ホールとジャズ・クラブでは、音の響きがいかに違う面もあるかと思いますが、コンサート・ホールならではの豊かなひびきのなかで、ジャズ・クラブの臨場感を感じていただければとても嬉しく存じます。

もともと米国に留学するまではクラシックを専攻されていた山中さんは、13年に発表した『モルト・カンタービレ』以降に『ユートピア』(18年)『ローザ』(20年)と頻りにアルバムの中でクラシックの楽曲を取り上げ、ご自身が選曲したクラシックのコンピ盤『クラシック・レミニセンス』(12年)も発表されています。特に、最新作『ローザ』ではベートーベンの有名な交響曲第5番『運命』までも取り上げられていて驚きましたが、自身のレパートリーとしてクラシックの楽曲を選ぶ際の基準などはありますか？

ジャズでは、誰もが知っているブロードウェイ歌曲などの有名曲を“スタンダード”と呼び、そのコード進行に合わせて演奏していきます。誰もが知っているという意味では、クラシックも立派なジャズの“スタンダード”だと思っています。できるだけ知られている曲、メロディの強い曲を選び、演奏しています。

今回のピアノとベースのデュオに打楽器を加えた編成は、ドラムスが加わった通常のピアノ・トリオとはまた違ったアプローチのものになるのではないかと思います。この編成で演奏する際の面白さやスリリングな点などを、演奏する側の観点から聞かせてください。

何かがどう出てくるのか、予測できないところに、ジャズの面白みや楽しさがあるように思います。

大阪または関西での公演やオーディエンスには、どのような印象をお持ちですか？単に偶然なだけかもしれませんが、過去のライブ録音盤やDVDは、大阪で収録されたものが多い気がします。

いつも大阪のお客さまにたいへん温かく迎えていただけますことを、心から感謝しております。今回はザ・フェニックスホールで、皆様にお会いできることをとても楽しみにしています。

山中千尋 Acoustic Jazz Live

2021年10月30日(土) 16:00開演 指定席

一般4,500円 友の会会員4,050円

学生(25歳以下)1,500円(限定数)

■共演 山本裕之(ベース)

橋本真輝(パーカッション)

■曲目 当日発表

■チケットのお求め、お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター

06-6363-7999(平日10時〜17時、土日祝休)



ザフェニックスホール
友の会優先予約

9月17日(金)
10:00 受付開始

イーフェニックス
E-PHX優先予約

9月21日(火)
10:00 受付開始

一般発売
9月22日(水)
10:00

インターネット予約による
お申込みは9月24日(金)10:00から!

■レクチャーコンサートシリーズ31

2022年
2月23日(水・祝)

15:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会会員¥3,150)
学生(25歳以下)¥1,000(限定数)

伝説のコンサート
サロンのショパンとリスト ロスチャイルド邸の晩餐会

出演 近藤嘉宏(ピアノ)、浦久俊彦(ナビゲーター)
曲目 ショパン: ノクターン 第2番 変ホ長調 op.9-2
ショパン: ワルツ 短調 遺作
ショパン: 舟歌 変ホ長調 op.60
リスト: 愛の夢 第3番 S.541 R.211
リスト: ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」op.53
リスト: コンソレーション 第3番 変ニ長調 S.172 R.12 ほか(予定)

このレクチャーコンサートでは、テーマとなる音楽家が活躍した時代の社会的・文化的背景に着目し、様々な角度で音楽家の実像を掘り下げていきます。今回のテーマとなる音楽家はショパンとリスト。二人が活躍した19世紀中頃のバリのサロン文化にスポットを当て、サロン文化がいかにして偉大な音楽家を育んだのかを紐解きます。ポーランド出身のショパンがなぜバリのサロンで活躍できたのか? ショパンとリストの間柄は? ショパンにとって最大のバロンだったロスチャイルド家のサロンではどのようなコンサートが催されていたのか? 等々、ショパンとリストにまつわる知られざる一面を写真と演奏を交えて紹介します。レクチャーには文筆家・文化芸術プロデューサーとして活躍する浦久俊彦氏、コンサートにはショパン演奏に定評のある近藤嘉宏氏が登場します。知的好奇心を満たしながら、上質の音楽を堪能する至福のひと時をお楽しみください。



近藤嘉宏(こんどう・よしひろ/ピアノ)

桐朋学園大学を首席卒業。ミュンヘンにてゲルハルト・オピッツ氏のもとで更なる研鑽を積む。1987年日本音楽コンクール第2位、92年ミュンヘン響との共演でデビュー。96年にCDデビューし、現在までに30タイトル以上のCD及びDVDをリリース、その内容はソロ、協奏曲、室内楽と多岐に渡る。以後サントリーホール、ザ・シンフォニーホールなどの主要ホールでリサイタルを開催。これまでに数多くの国内外のオーケストラに客演し、ネーメ・ヤルヴィ、トーマス・ザンデルリンク、広上淳一、外山雄三の各氏をはじめとする数多くのマエストロと共演を重ねている。2004年にカーネギーホール、2006年にはウィーン・ムジークフェラインでリサイタルデビュー、2016年デビュー20周年事業として、ミュンヘンのマックス・ヨゼフ・ザールでリサイタルを開催。ウィーンのみずくフェライン大ホールにベートーヴェンの「皇帝」でデビューを飾った。2017年には、高雄交響楽団(台湾)と共演、2018年、光州市立交響楽団(韓国)定期演奏会に招かれるなど、国際的な活動にも益々の広がりをみせている。2017年、松竹映画「砂の器」シネマコンサートにおいて、不可能と言われた「宿命」を含むピアノソロを演奏し成功を収め、2018年、19年に東京交響楽団、日本フィル、日本センチュリー響等と再演を重ねている。またプロデューサーにギタリストの鈴木大介を迎え、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲を録音、深化した音楽性に高い賞賛が寄せられている。

公式フェイスブックページ<https://www.facebook.com/yoshihirokonopianist/>



浦久俊彦(うらひさ・としひこ/ナビゲーター)

文筆家、文化芸術プロデューサー。一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、代官山未来音楽塾塾頭、サラマンカホール音楽監督、三島市文化アドバイザー。パリを拠点に文化芸術プロデューサーとして活躍。帰国後、三井住友海上しらかわホールのエグゼクティブ・ディレクターを経て、現在、浦久俊彦事務所代表。多彩なアーティストのオリジナル企画を手がけるほか、文化芸術ナビゲートとしても全国で活躍している。また、日本とヨーロッパの文化交流活動、音楽をよりよい社会創りに活かす人材の育成、地域の音楽文化の振興など、その活動は多岐にわたる。著書に「フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか」、「悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト」(以上、新潮社)、「138億年の音楽史」(講談社)など。2020年6月に「フランツ・リストはなぜ〜」の韓国語版「フランツ・リスト〜ピアニストの誕生」が、韓国で出版された。最新刊は「ベートーヴェンと日本人」(新潮社)。2021年3月、サラマンカホール音楽監督として企画した「ぎふ未来音楽展2020」が、サントリー芸術財団第20回佐治政三賞を受賞した。

公式ホームページ:<https://www.urahisa.com>

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ99

主催 中村圭介

2022年
2月2日(水)

19:00開演 自由席

一般前売¥2,000(友の会会員¥1,800)

一般当日¥2,500(友の会会員¥2,250)

学生前売¥1,000 学生当日¥1,500

エドヴァルド・グリーグが彩る日常生活と一緒に覗いてみませんか
中村圭介ピアノリサイタル〜抒情でたどるグリーグ〜

出演 中村圭介(ピアノ)

曲目 グリーグ: 抒情小曲集より

- Book 1 op.12 1.アリエッタ 2.ワルツ
Book 2 op.38 4.ハリング
Book 3 op.43 1.蝶々 2.孤独なさすらい人 3.放郷にて 4.小鳥 5.愛の歌(エロディク) 6.春に寄す
Book 4 op.47 4.ハリング
Book 5 op.54 3.小人の行進 4.夜想曲
Book 6 op.57 2.ガーデ
Book 7 op.62 1.風の精 2.感謝 3.フランス風のセレナード 4.小川 5.夢想 6.家路
Book 8 op.65 2.農民の歌 5.トルロッドハウゲンの婚礼の日
Book 9 op.68 3.あなたのそばに 5.ゆりかごの歌
Book 10 op.71 3.小妖精 5.ハリング 7.余韻

66曲からなる抒情小曲集(全10集)は、作曲家グリーグの初期から晩年までの音楽が詰まっている。第1曲目の「アリエッタ」で始まり、終曲「余韻」(思い出)でこの曲集は締めくくられる。「アリエッタ」で奏されたメロディは長い年月を経て、ふたたび「余韻」の中に現れる。この「余韻」によって抒情小曲集の全66曲に巨大な弧が描かれる。それはあなたも少女が年13歳だ歌をおばさんが懐かしく回想しているようだ。この抒情小曲集にはどこか懐かし耳馴染みの良い曲がたくさんある。それは、昨日のできごとであったり、ふと思う明日のことであったり。あなたのお気に入りの一曲を見つけていただけると確信している。演奏会当日に、抒情小曲集全曲を音楽録音レベル「Studio N.A.T」より配信!是非とも楽しみに!



中村圭介(なかむら・けいすけ/ピアノ)

京都市立芸術大学音楽学部卒業後、文化庁在外派遣制度研修生としてドイツ国立ハノーファー音楽演劇大学芸術家養成課程、同大学ソリスト課程へ進み研鑽を積む。在学中に野村国際文化財団より奨学生と認められ、グリーグのピアノ作品の演奏・研究を行う。第6回兵庫県学生ピアノコンクール最優秀賞、第3回神戸芸術センター記念コンクール銅賞、第10回グリーグ国際ピアノコンクールにてバルトーク賞及びディプロマを授与、第24回宝塚ベガ音楽コンクール第2位等、多くのコンクールで成果を上げた他、ソロ、室内楽共に積極的な演奏活動を展開。ドイツ、スペイン、ノルウェーにてリサイタルを開催するなど国内外のコンサートへ数多く出演している。これまでに森川和子、田岡靖子、上野真、アイナル・ステーン・ソックレベルクの各氏に師事。現在神戸市混声合唱団ピアノリスト団員。2016年にデビューアルバムとなるグリーグのピアノ作品集「アリエッタ」をStudio N.A.Tよりリリース。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

<https://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

チケットセンター
来店窓口臨時休業中

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申し付けください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約

- E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはお申し込みはお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、売完表示のない公演でもお申込み時には売完となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールを送りいたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続きビル8階のチケットセンター来店窓口を臨時休業いたしております。
お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

チケットお申込み後の受け渡し方法

電話予約後には郵便振込をさせていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのは入金をいただいってから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にて負担ください。尚、振込は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ94

主催 まほろば二重奏リサイタル実行委員会

2022年3月5日(土)

18:00開演 自由席

一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700)

一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)

学生前売¥2,000 学生当日¥2,500



ザ・フェニックスホールに届する…!

サクソフォンの甘美な音色とミニマルで大胆な2つの音。

まほろば二重奏リサイタル

～サクソフォンデュオの可能性～

※2020年11月11日(水)の振替公演

出演 福田亨、寺田麗美(以上サクソフォン)

曲目 バルトーク:44の二重奏曲 Sz.98より

ヒンデミット:2本のアルトサクソフォンのための演奏会用小品

池辺晋一郎:パイヴァランスⅧ

S.ガランディ:Saxsounds III (日本初演)

J.V.フェルトハウス:タタタ・デュオ

J.S.バッハ:フランス組曲 第5番 長調 BWV816

A.ミンチェック:カラテ(日本初演)

B.コッククロフト:スラップ・ミー!

クラシック音楽の中で発展してきたサクソフォンの室内楽と、ポピュラー音楽に影響を受けたサクソフォンならではの現代音楽、ふたつの側面からサクソフォン二重奏の可能性を示すコンサートプログラムをお届けする。単音楽器による二重奏はそう多くないが、室内楽の身近な形として古くから親しまれ、作品が残されている。前半はバッハ、バルトークの作品を“まほろば”オリジナルアレンジで、そしてサクソフォン二重奏のために書かれた作品として名高いヒンデミットと池辺晋一郎氏の作品へと続く。後半はポピュラー音楽の影響を受けた現代音楽を取り上げる。ジャズやポップスで活躍するサクソフォンならではのアプローチが聴きどころ、とりわけサクソフォン奏者でもあるミンチェック、コッククロフト両氏の作品では、サクソフォンの効果的な使い方、魅せ方においてクラシックにとどまらない表現の可能性を追求していると言える。2本のサクソフォンが紡ぎ出す新感覚な音世界をお楽しみいただきたい。

2022年度フェニックス・エヴォリューション・シリーズ 審査結果のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保が・フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールを活用いただくことも重要な事業と位置付けています。『フェニックス・エヴォリューション・シリーズ』は、プロ・アマを問わず、音楽を愛するみなさまから公演の企画を募り、審査を経て選ばれた方々にホールと付帯施設を無料で提供しています。2022年5月から2023年2月までの4公演の枠に、国内外から26篇のご応募をいただきました。去る7月18日に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、4篇の企画を選入といたしました。

■本年の選考アドヴァイザー(五十音順) 椎名充輔様(同志社女子大学教授) 藤井快哉様(ピアニスト・大阪音楽大学教授) 吉本秀純様(音楽ライター)
(小室敬幸氏は諸事情により欠席されました)

2022年5月31日(火)

ボーンズ・ヴィレッジ=Bones Village-
トロンボーン四重奏が奏でる
イギリス音楽の世界

■出演

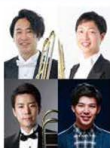
岡村哲朗、戸井田晃和、新田旭(以上テナートロンボーン)、赤井重延(バーストロンボーン)

■曲目

ヘンデル:オトリオ「ユダス・マカベウス」第3幕より

「讃えよ、アーメン」

ブルジョワトロンボーン四重奏曲(原調) ほか



2022年8月2日(火)

Trio MEZZO リサイタル

～メゾソプラ、ヴィオラ、ピアノによる魅惑の作品～

■出演

川合ひとみ(メゾソプラノ)、村田恵子(ヴィオラ)、辻田祐希(ピアノ)

■曲目

レフラー:4つの詩曲 op.5

ブラームス:2つの歌 op.91 ほか



2022年11月8日(火)

窪田健志 ティンパニリサイタル
「Stroke to 'B' and 'C'
-BとCへの一撃-」

■出演

窪田健志(ティンパニ)、ジョエル・ビードリツキー(打楽器)、野田清隆、居福健太郎(以上ピアノ)

■曲目

バルトーク:2台のピアノと打楽器のためのソナタ

カーター:4台のティンパニのための8つの小品より(抜粋) ほか



2023年2月7日(火)

法貴彩子
ピアノ・ジャンクショ Vol.3
～「ソナタ」の魅力と呪縛～

■出演

法貴彩子(ピアノ)

■曲目

ベートーヴェン:ピアノソナタ 第17番「テンペスト」

ビエール・ブーレース:ピアノソナタ 第2番 ほか



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演Sun Bones Trombone Trio
ザ・フェニックスホールコンサート Vol.3

主催 Sun Bones Trombone Trio

10/1(土)
発売

2021年12月7日(火) 19:00開演 自由席
一般前売¥2,500(友の会会員¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会会員¥2,700) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

出演 武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉(以上トロンボーン)
曲目 大内邦晴:天地創造〜Creation〜(当団体委嘱作品)
J.S.バッハ(石井徹哉編):小フーガ短調 ほか

2018年度フェニックス・エヴォリューション・シリーズ
に選出されたSun Bones Trombone Trioが再び
ザ・フェニックスホールで3声の響きをお届けします。
トロンボーントリオのレパートリーを開拓し、近年は
Sun Bones Collectionとして楽譜を意欲的に発表し
ているさんぽんトリオの新作をお楽しみください。

協賛
公演

東誠三 クリスマスピアノリサイタル

主催 オランジュの会

9/16(土)
発売

2021年12月25日(土) 14:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会会員¥4,050) ※友の会割引は1会員2枚まで

出演 東誠三(ピアノ)
曲目 ハイドン:ソナタ 第38番 へ長調 op.13-3 Hob.XVI-23
モーツァルト:
デュボールのメヌエットによる9つの変奏曲 二長調 K.573
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第8番 八短調「悲愴」op.13
シューベルト:即興曲 op.90-2, op.90-4
ブラームス:3つの間奏曲 op.117
クライスラー(ラフマニノフ編):愛の悲しみ、愛の喜び

東誠三リターン!過去11年にわたり、大阪での年末
のコンサートを実現させ、真摯な作曲家・楽譜との対
話、超絶打鍵による音の美しさで我々を魅了してきた
東誠三。昨年はコロナ禍で実現できなかったが、
今年は「鍵盤音楽の150年」と銘打って、ウィーンに
因む名曲を携えて戻ってくる。「悲愴ソナタ」を始め
数々の名曲を更に進化させて聴かせてくれるに違い
ない。ピアノを学ぶ人は絶対に外せない。

協賛
公演～新進気鋭のフルートカルテット「Con」が、フルート界の魔術師・多久潤一郎の新曲に挑む～
Con-la natura-

主催 ユウ ベリイ プランニング

発売中

2021年12月26日(日) 16:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) ※友の会割引は1会員1枚限り。前売のみ。
一般当日¥4,500 大学生前売¥2,500 大学生当日¥3,000 高校生以下前売¥2,000 高校生以下当日¥2,500

出演 角芽吹、松岡優、嶺井千奈、山本英(以上フルート)
曲目 多久潤一郎:新作(2021年Flute Quartet Con委嘱作品)
ボザ:夏山の一
サン=サーンス(神田寛明 編):動物の謝肉祭 ほか

2018年、東京藝術大学の同級生で結成され、「皆様
とともに“素晴らしい音楽を愉しめよう!”とい
うコンセプトのもと、活動を開始。第19回日本フル
ートコンヴェンション福岡2019コンクールアンサン
ブルアワード部門第一位獲得。フレッシュで実力派な
フルートカルテットとして注目を浴びている。



©Nadia Navase

フョードル・ルディン ヴァイオリンリサイタル

Phoenix spot

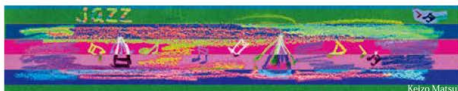
フョードル・ルディンは、2018年バガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール第2位に輝いた若きヴィルトゥオーゾ。
2019-2021年にはウィーン国立歌劇場&ウィーン・フィルハーモニーのコンサートマスターを務め、現在は世界を舞
台に活躍するソリストへと歩を進めています。ソコ、室内楽のみならずオーケストラの指揮者としても活躍するルディ
ンは、圧倒的な演奏技術に加え、曲への深い探求心と理解により独自の世界を切り開いています。プログラミングも
非常にユニークで、今、まさに注目すべきヴァイオリニストの一人です。

2021年11月26日(金) 14:00開演 ※お菓子サービス付
一般¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生(25歳以下)¥1,000(限定数・当ホールのみのお取扱い)

出演 フョードル・ルディン(ヴァイオリン)、ボリス・クズネツォフ(ピアノ)
曲目 ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第5番 へ長調「春」op.24
モーツァルト:ロンド 八長調 K.373
シューベルト:華麗なるロンド 短調 op.70 D895
エルンスト:シューベルトの「魔王」による大奇想曲 op.26
ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク:ヴァイオリンソナタ 長調 op.5 (予定)

即興こそ音楽の生命線

— 岡田暁生



毒舌で知られた伝説の大指揮者セシル・デメタ・チェリビダッケは、嘘かまことかカラヤンのことを「コカ・コーラ」呼ばわりし、レコードを「缶詰」と罵ったといわれる。いうまでもない、コカ・コーラも缶詰も「いつでもどこでも同じ味し」かないバック商品の意味である。周知のように彼は絶対に録音をしないことで有名だった。だがある意味でクラシックの歴史とは、「いつでもどこでも常に同じ」を目指して発展してきたといつて過言ではない。楽譜がいい例だ。時代が下るほどに加速度的に緻密に、複雑になっていく。またベートーヴェンの頃からメトロノームによる速度指示も加わって、それまでの「アレグロ＝快活に」「アンダンテ＝歩く速さで」などといった漠然とした表現ではない、いつでもどこでも同じ客観テンポが可能になった。そしてバッハもモーツァルトもベートーヴェンもリストも即興の名手だった一方、ステージ上で即興演奏をやる習慣はクラシック界では19世紀後半から絶えてきた。ハンス・フォン・ビューローとクララ・シューマンは近代のピアノ演奏のスタンダードを作った人だが、二人とも少なくとも後半生においてはステージ上の即興はやらなかった。

クラシック音楽独特の「いつでもどこでも同じ」に飽き足らなくなり始めたのは十何年くらい前である。そもそもクラシック教育というのは「練習した通り」を完璧に本番でも再現する、ということが絶対目標になっている。小さいころから完全に仕上げてからステージに乗せるという教育をされる。つまりクラシック演奏家は「その場の空気次第で融通を利かせて」などという「悪習」に染まてはいけないのである。本当はクラシックでもその場の空気次第で微妙に演奏表現は毎回違ってくるし、そもそも偉大な音

楽家は「その場の空気」によってほとんど即興のように表現を変える人が多かった。フルトヴェングラー、ホロヴィッツ、リヒテル、前述のチェリビダッケ——みんな本番ごとにまったく違う演奏をすることで有名であった。しかしそれでもなお、クラシック音楽家の即興は音符を変えるところまでは行かない。楽譜にはないイントロを子犬のワルツに即興でつけることはしない。別の曲に仕立ててはいけない。

もちろんジャズでも予めかなりアレンジをして、毎回「その通りに」弾く人も結構いるはずだ。だが不思議なものでこういうケースは、「あ、アレンジしたものをぞってやるな……」となんとなく分かる。安全運転感が漂う。そして逆に本当の即興演奏は、いつクラッシュしてもおかしくない、「出たとこ勝負」の命がけの緊迫感がある。実際クラッシュすることときどきある。ズレて取掛がつかなくなるといったケースだ。しかし私にとってのジャズの最大の魔力は、この命がけの搏打にある。ぐらついてクラッシュしそうなとき、「ちょっとタイム」などと言うことも出来ず、容赦なく前へ進んでいく時間の中で、どうやって復旧工事をするか。ジャズで最もエキサイティングな瞬間はこれだとすら思う。

しかし「後戻りがきかない」＝「タイムをかけられない」とは、録音メディアが発明されるより以前、まさに音楽という芸術そのものの本質ではなかったのだろうか？ 絵画や小説に推敲はきいても、音楽ではそれが出来ない。この命がけの潔さの点で音楽とは、綱渡りの芸や闘牛などととても近い。ジャズの即興とは私にとっていつも音楽芸術の原点を思い出させてくれる。

岡田暁生 (おかだ・あけお) / 音楽学者、京都大学人文科学研究所教授

1960年京都生まれ。京都大学人文科学研究所教授。専門は近代西洋音楽史。著書「リヒャルト・シュトラウス 人と作品」(音楽之友社、2014年)、「オペラの終焉 リヒャルト・シュトラウスと(バロの)夢」(ちくま学芸文庫、2015年)、「音楽の聴き方」(中公新書、2009年、吉田秀和賞受賞)、「ピアニストになりたい」(春秋社、2008年、芸術選奨新人賞)、「西洋音楽史」(中公新書、2005年・韓国語版、2009年)、「オペラの運命」(中公新書、2001年、サントリー学芸賞受賞)など。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪府北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

発行年月 2021年9月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザフェニックスホール
編集 上田英司
デザイン 松井桂三有限会社

